アジア人の自画像

室謙二

晶文社

著者について
室謙二（むろ・けんじ）
一九四六年東京に生まれる。明治学院大学中退後「ベ平連」の活動に従事。
著書『旅行のしかた』（晶文社）

アジア人の自画像

一九七九年九月二五日発行

著者　室謙二
発行者　株式会社晶文社
東京都千代田区外神田二-一-一二
電話東京二五五局四五〇一（代表）・四五〇三（編集）
振替東京六-六二七九九
壮光舎印刷・美行製本

© 1979 Kenji Muro
本書の内容の一部あるいは全部を無断で複写複製（コピー）することは、法律で認められた場合を除き、著作者および出版社の権利の侵害となりますので、その場合には予め小社あて許諾を求めてください。
〈検印廃止〉落丁・乱丁本はお取替えいたします

アジア人の自画像

室謙二

晶文社

晶文社　1500円　0098-3652-3091

アジア人の自画像

室謙二

晶文社

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.

ブックデザイン　平野甲賀

アジア人の自画像　目次

序論・アジア人の自画像　ハン・スーイン　11

ノートI　63

村上龍　日本をうつすマジック・ミラー　67

ボブ・ディラン　帝国の詩人　82

ノートII　105

「世界文学」の読み方　モームとカミュ　108

日本の教育、南太平洋の詩　124

「子ども共和国」の作られ方　十五少年漂流記　138

帰ってきたノーノー・ボーイ　谷譲次とジョン・オカダ　152
ノートⅢ　175
「新しい政治」とテレビ　177
「華氏四五一度」の世界　191
ノートⅣ　207
タマゴ石と石子順造　209
金子光晴　アジア人としてのアイデンティティ　214
あとがき　250

アジア人の自画像

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.

序論・アジア人の自画像

ハン・スーイン

1

その時は気がつかなくても、後から振り返って見ると、その何年間か自分を「支配」していた本があったということが解る瞬間がある。それは何冊かの本かもしれないし、たった一冊の本だったかもしれない。それは何回もくり返し読まれたかもしれないし、あるいは一回読まれただけで、あとは本だなにしまわれたか、机の上に置いておかれたとか、友だちに貸してしまった本だったかもしれない。

どの場合でも、その本から、紙のページに印刷された文字からしみ出してきた力が、じわじわと私たちの体にしみ入る。それは、考え方とか感じ方だけでなくて、人間のもっと深いところを動かすことさえある。

私にとってハン・スーインの自伝と自伝的小説は、この本におさめられている文章が書かれたこの数年間、私を「支配」していた本だった。

ハン・スーインの名前をはじめて聞いたのは、ある友人からだった。彼はこれも友人のイギリス人からすすめられて、ハン・スーインの本を読みはじめたばかりだった。

「ハン・スーインというのは何者だい?」

と私が聞くと、ホンコンを舞台にしたハリウッド映画「慕情」の原作を書いた、中国人とベルギー人の混血の女性の作家だとおしえてくれた。彼女の自伝がおもしろい、と言う。

しばらくたって、テレビで映画「慕情」をやっているのをちらっと見た。有名な主題歌が"Love is a many-splendoured thing"と甘く流れるのを背景にしてジェニファー・ジョーンズとウイリアム・ホールデンが演ずるハリウッド風のラブ・ロマンスを見ながら、私はこの映画の原作をどうしても読みたくなった。ハリウッド風に変形されてしまった物語の奥に、もう一つの物語があるに違いないと思った。

2

ホンコンを舞台にした「慕情」は一九五二年にイギリスで出版されている。原題は"A Many-Splendoured Thing"「さまざまに輝く一つのもの」で、「慕情」というタイトルはこの本を原作にした映画をハリウッドが作り、それを日本に輸入した時に日本の映画会社によって作られた。

この自伝的小説は、角川文庫「慕情」のあとがきによれば発売と同時にベストセラーになり、各国語に翻訳され全世界で数百万部売れたという。この本は彼女の二冊目の本で、最初の本は国民党の青

年将校を夫に持っていた時代に、アメリカ人の女医との共作で英語で書かれた「重慶をめざして」。「慕情」を書いた当時、彼女はホンコンで医師の仕事をしていた。その後マレーシアに住み医師をしながら小説を書き続け、一九六〇年代になってからホンコンで自伝を書きはじめる。

彼女には、現代中国を擁護する立場から書かれた評論集、あるいは大部な「毛沢東伝」もあるが、私のこの文章では主に「慕情」という一冊の小説と三冊の長い自伝を取り上げることにしようと思う。

中国本土では毛沢東にひきいられた解放軍が、いたるところで蔣介石の国民党軍を撃ち破っていた。金持ちと、ある場合には貧困人、そして外国人、宣教師たちが本土から香港にどんどん逃げてきていた。「慕情」に描かれている物語は、本土から逃げてきた人びとにうずまった香港で始まる。一九四九年に始まり一九五〇年に終る、中国人とベルギー人との混血の女医とイギリス人新聞記者の恋愛物語なのだ。

この物語に登場する女医の名前はハン・スーインで、この物語を書いた作家のペン・ネームもハン・スーインだった。この小説はフィクションと言うより香港を舞台にしたある時代とある恋愛のドキュメント、個人史と歴史の接点の記録なのだ。

そしてこの恋愛は、毛沢東が勝利し、朝鮮半島で戦争が始まる時代の中で深まっていく。ハン・スーインは解放軍に落ちる寸前の重慶に飛び、生き生きとしたルポルタージュを書く。解放後の様子も彼女はこの小説の中に書き込む。彼女は時代を、革命を、植民地を、その時代、植民地、革命の中で作られた混血児である自分の肉体を通して描く。文章はエネルギーに満ちて事件を描写する。同時に

表面だけ読んだら読み流してしまうけどそのうしろに何かが隠れている、美しいが解りにくい神経症的な文章、描写があらわれる。あとで自伝を読むことで解ってきたのだが、彼女はこの恋愛の中で自分を治療し、その恋愛事件を意味づける小説を書くことで自分を回復したのだった。ハリウッド映画「慕情」を見て感動した人がこの本を読み始めるなら、いろんなことが理屈っぽく、ある時は過度に感情的に書き込まれているのに嫌気がさし、退屈して投げ出してしまうだろう。ハリウッドはこの本の中から自分たちに都合のいい話しだけを取り出して映画を作ったのだ。

一九六五年にイギリスで発行されたハン・スーインの自伝の第一巻「悲傷の樹」The Crippled Treeは、一九五八年のパリでハン・スーインと彼女の兄がひさしぶりに会うところから始まる。そして話しは一転して父親の家系である客家の歴史を記述するために何世紀もさかのぼる。

話しは行きつもどりつしながら進み、父親が生れ育ち、彼がベルギーに留学し、ハン・スーインの母親になる人に出会い、そしてついに自分が生れるところまでたどりつく。その時、この日本語版の自伝第一巻A5判二段組の四百数十ページの本の2/3がすでにすぎている。

彼女は親戚からの聞き書き、両親の手紙、手記、それに自分の記憶を使って、中国の現代史と自分の家族の歴史と自分自身の歴史を書いていく。

彼女は北京で生れ、カトリックの教育を受け、家ではフランス語と中国語を話し、学校では英語をならうだろう。

自伝の第二巻は「転生の華」The Mortal Flowerと名づけられている。彼女は北京の西洋人社会、

混血児社会に暮し、自分の仕事を持ちながら燕京大学に通い、ヨーロッパ人の年上の恋人を作る。自伝のどの巻でも、自分たちのまわりの事件と同じぐらいのスペースをさいて、その時の中国の歴史的事件が、朱徳が周恩来が毛沢東が、張学良、馮玉祥、蔣介石が活躍する世界が描かれる。

一九三五年から一九三八年まで、彼女はベルギーのブリュッセル自由大学に留学する。彼女は医学の勉強を途中で打ち切って、ベルギー人の婚約者、母方の祖父をふり切り日中戦争下の中国に帰っていく。

自伝第三巻「無鳥の夏」Birdless Summer の冒頭で、彼女は唐宝璜と出会う。この青年は国民党のエリート将校だった。二人は中国に向う船の上で婚約し、中国にもどってから結婚する。

唐宝璜といっしょに重慶に行き、のちに彼はロンドン大使館つき武官になり、二人ともヨーロッパにもどる。この危機の時代が第三巻に描かれる。日本軍に侵略されている中国、それに対して有効に戦えない腐敗した国民党という大状況と、夫との関係という私的な状況が、彼女をぎりぎりの精神的な危機に追い込む。結局、彼女は夫をはなれロンドンで再び医学の勉強を始め、唐宝璜は中国にもどり紅軍との戦闘で死ぬ。自伝第三巻「無鳥の夏」は彼女が医師になって香港に向う飛行機に乗り込むところで終っている。

時代的に言えばこの後に「慕情」に描かれた時代が続く。

混血のハン・スーインの肉体の中に、ヨーロッパと中国という二つの世界がある。彼女の肉体の中に二つの歴史が流れている。帝国主義と反植民地主義が彼女の中で戦う。彼女は自分の肉体を通して、

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.